

記念物／天然記念物

県指定文化財 (S60.3.14指定)

53 おおばら 大原のクロガネモチ

クロガネモチは、関東以西の本州、四国、九州、济州島、琉球列島、台湾、中華人民共和国からインドシナ半島の暖帯ないし亜熱帯に自生する雌雄異株（正しくは雑株）の常緑広葉樹で、国内の巨樹は植栽木に多い。大原のクロガネモチは、樹高17.16m、胸高幹囲3.9mの県内有数の巨樹で、国指定のものに劣らない大きさであることに加え、樹幹基部の異常肥大が学術上注目すべき資料であることも認められて県指定となった。特色ある根張りの例には、熱帯の湿性密林の巨樹にみられる板根があり、西日本のエノキ・ムクノキ・シイノキなどにその面影が見られる。



有形文化財／美術工芸品

市指定文化財 (H4.1.17指定)

非公開

54 ばばかんのんどう もくぞうしょうかん ぜ おん ぼ さつりゅうぞう 馬場観音堂の木造聖観世音菩薩立像

大原の馬場にあるこの観音堂には、弘化4 (1847) 年再建とある棟札と、安永2 (1773) 年寄進の石灯籠がある。

多岐にわたる苦難から衆生を救うために様々な姿になって現れる観音菩薩の中で、最も根本となるのが「聖観音」である。堂内には聖観音菩薩を中尊として、両脇侍に不動明王と毘沙門天を配して安置されている。



有形文化財／美術工芸品

市指定文化財 (H4.1.17指定)

非公開

55 だいにちどう もくぞうだいにちによらい ざ ぞう たいぞうかいだいにちによらい 大日堂の木造大日如来坐像 胎藏界大日如来

56 だいにちどう もくぞうだいにちによらい ざ ぞう こんごうかいだいにちによらい 大日堂の木造大日如来坐像 金剛界大日如来

大日如来は、密教における最高最尊という絶対的な存在として王者の風格を示し、如来でありながら菩薩と同様に宝冠を戴き、装身具を身に着けた華やかな姿になる。

胎藏界大日如来は「理」という物理的なものの形の日常の世界「胎藏界」の姿になり、法界定印を腹前にて結ぶ。金剛界大日如来は「智」という精神的なものの働きの不変的世界「金剛界」の姿になり、智拳印を胸前にて結ぶ。この2軀は、室町時代に遡る遺例であろう。



胎藏界大日如来

金剛界大日如来

有形文化財／美術工芸品

市指定文化財 (H4.1.17指定)

57 おおばらじゅうにけいえま
大原十二景の絵馬

江戸時代、能美島では俳諧文化が盛んで芸備の雅人が来島し大原村の風景を詠んだ俳句会が催され、広島俳人12人による大原十二景の句を芭蕉の孫弟子多賀庵風律の孫小田玄蛙が撰し、大原村の閑考庵雨丹が文化13(1816)年に大原の八幡宮に奉納したものである。



有形文化財／美術工芸品

市指定文化財 (H4.1.17指定)

非公開

58 ろっかくしすいさくすずりばこ
六角紫水作「硯箱」59 ろっかくしすいさく
六角紫水作「かきつばたの図」

六角紫水は慶応3(1867)年、大原村に生まれ、明治26(1893)年東京美術学校卒業、同校教授を経て美術院会員になる。漆工芸界の先駆者として彩漆いろうるしの開発、また中尊寺金色堂、厳島神社社殿の修復にも従事した。

本市には紫水の作品としては珍しい彩漆の紙本額装の「かきつばたの図」と艶消しアルマイト箔で作った人物を貼り付けた硯箱がある。



六角紫水



硯箱



写真展示



かきつばたの図

レプリカ展示

有形文化財／美術工芸品

市指定文化財 (H4.1.17指定)

非公開

60 ふかえむらこくぐんしかきだしちょう
深江村国郡志書出帳

佐伯郡深江村が文政2(1819)年広島藩に提出した「國郡志御編集下志らべ書出帳」の控えである。藩内各村の「村名の由来、山川の形勢、動植物等」をまとめた書類で一般的に「書出帳」と言われ、文政8(1825)年に「藝藩通志」ができています。



有形文化財／美術工芸品

市指定文化財 (H4.1.17指定)

非公開

61 のうみとうし
能美島志

「能美島志」は、大原の久保利右衛門が江戸時代宝暦13(1763)年に旧佐伯郡能美島全体の地勢、山海、土産、社(小祠)、寺院(小堂)古蹟等をまとめた地誌で、郷土の歴史を知ることができる基本図書。



有形文化財／美術工芸品

市指定文化財 (H4.1.17指定)

62 おぶれむらえず
小古江村絵図

文政2(1819)年広島藩に提出した「國郡志御用付書出帳」、領内各村に命じて一定の様式を示して、その村の状況を絵図にし、国郡志書出帳と併せて提出させた。



有形文化財／美術工芸品

市指定文化財 (R4.8.22指定)

非公開

63 かいぐんしょうごしょうちりやくず
海軍省御所用地畧図

明治19(1886)年7月、海軍兵学校の江田島移転のため、用地買収予定地の地番・地目などを表した図面。本史料の内、海軍兵学校移転用地となったのは約3分の1程度である。当時の地目(宅地・農地・山林など)が彩色で記入され、大半が農地であり、当時の農作業の実態が把握できる。



レプリカ展示

有形文化財／建造物

64 はちまんぐうじんじゃ
八幡宮神社

承平2(932)年に豊前国宇佐八幡宮から勧請して新宮八幡宮と尊称。東能美島の飛渡瀬・柿ノ浦・小古江・大原・深江・大君六ヶ村の惣氏神で、9月には勇壮な祭礼が行われている。



民俗文化財／無形民俗文化財

65 はちまんぐうじんじゃさいれいかぐら
八幡宮神社祭礼神楽

旧暦8月15日、三体の神輿は数十人の囃と百数十本の幟に色どられ、加勢数百人を従え、沿道を埋めた多くの観衆の中を、けんらん豪華な行列が浜宮へ渡御される。これより各神輿は先を争って帰宮の途につくが、そこにくりひろげられる氏子の若者たちの熱気はまことに壮観で、他に類をみないものがある。



有形文化財／建造物

市指定文化財(H4.1.17指定)

66 おおばらやくしどう きょうせきとう
大原薬師堂の経石塔

大原の薬師堂の境内にあるみかげ石の経石塔。江戸時代洪水や干ばつによる飢饉により死亡した人々を供養するため、宝持寺住職の発願で薬師経を一字一石に写して埋め、経塚にして建てられた石塔。

表に「薬師経石塔」、側面に「当邑横死消除一石一字写者也 安永2(1773)年癸巳5月吉旦現宝持寺敬白」と刻されている。経石は一部掘り出され大柿地区歴史資料館で保管展示している。



有形文化財／美術工芸品

非公開

67 じゅうおうどうぶつぞう
十王堂仏像2軀

十王堂について正徳5(1715)年の「佐伯郡両能美島寺社古跡覚書之扣」に十王堂とある。仏像などの由来については不明であるが、釈桃命の漢詩に「筆を捨て忿を解く焰王の顔」と書き記している。



記念物／史跡

68 ぐんかんおおよどせんぼつしゃのひ
軍艦大淀戦没者之碑

江田島湾の最奥部、飛渡瀬海岸の旧飛渡瀬港近くに海軍最後の連合艦隊旗艦の栄誉を担った巡洋艦大淀の慰霊碑がある。昭和20(1945)年3月呉軍港初空襲で被害を受け、江田島湾に繫留された。しかし、その後の数度の攻撃により横転座。270余名の戦死者が出た。

